

# 患者の共感大切

津

県歯科医師会  
黒川氏が特別講演

【津】県歯科医師会（峰正博会長）は二十七日、津市大門の津センターパレス五階ホールで「平成十七年度北海道・東北・信越・東海地区歯科医師会役員協議会」を開き、日本学術会議会長の黒川清さんが「21世紀の医学教育、医療、医療制度への提言」と題して特別講演し、後半「医療・歯科医療はどうあるべきか」総合討論をした。

黒川さんは「今の生活を当たり前前だとしていないか」と投げ掛け、日常の診療の中で、

患者にどれだけ共感し理解してもらおうかが大事だと話した。「感染症に効く薬が初めてできたのは百年前。研究費がない日本で、今でも名が残る大発見をした医者が何人もいる。今これだけ研究費を使って百年後にどれだけ名前が残っているか」「六十年前には栄養失調で死んでいたが今は栄養過多」と例を挙げながら次々と国民皆保険制度や医療を取り巻く環境の急激な変化、医学教育、医学研究体制などの問題点を指摘し、今何

をするべきかを話した。

各県の歯科医師会役員百二人が参加。黒川さんが早口でよどみなく話す内容に苦笑いをしたり拍手しながら聞き入った。

黒川さん（左）は十四年の米国生活で内科教授になり、日本に帰ってきてから海外の教



今何をすべきかについてよどみなく語る黒川さん—津市の津センターパレス5階ホールで

授として初めて東大の教授になり、退官直前に辞し東海大学の医学部長に移籍。政府の第三期科学技術計画（二〇〇六—一〇年度）作りを控え五十年先を見据えた「日本科学の技術政策の要諦」を發表するなど各方面で活躍する。